

お年玉プレゼント企画

年初めのお年玉企画として、事務局の木村さんが審査員となり、発表が一番よかったグループに、studio-L が大阪で買ってきたチーズケーキがプレゼントされるサプライズ企画が。各班ともわかりやすい発表でしたが、ターゲットをしっかりと絞って発表できていた3班が見事優勝。市役所職員が通常プレゼンする場合、ターゲットは市民ですが、今回は木村さん。木村さんの関心ごとである「若い人をまちづくりに参加させる」ことに多く触れていたのが3班でした。木村さんからチーズケーキをプレゼントされた3班は、市民に対してきちんとプレゼンできるようにしたいと、今後の取り組みに向けた意気込みを語りました。



T-LINE に決定!

研修の最後に、職員研修メンバーのチーム名を決めようと全員で投票をしました。結果、「T-LINE」が一番人気に。高浜の T を頭文字に、「LINE」のように気軽に職員メンバー同士が課や年齢の枠を超えてつながることができるように。また、来年度は市民を交えたヒアリング、ワークショップが始まり、市民との関わりがますます多くなっていくことから、市民とも気軽につながり、仲間をどんどん増やしていけるようにという思いを込めてこの名前になりました。これからは、市民の皆さんから「T-LINE の皆さん!」と呼ばれるよう、積極的に地域へ出ていきましょう。



課題図書

これまでの研修で、まちづくりの事例を知ることで本やファシリテーション技術についての参考図書を紹介しました。次回の研修では課題図書について感想をいう時間を設けます。ぜひ1冊以上読みましょう。

▶まちづくりの事例を知る

- ・地域を変えるデザインコミュニティが元気になる 30 のアイデア 英治出版 (2011)
- ・ソーシャルデザイン 社会をつくるグッドデザイン集 朝日出版社 (2012)
- ・ソーシャルデザインの教科書 生産性出版社 (2014)

▶ファシリテーション技術を身に付ける

- ・ファシリテータ養成講座 人と組織を動かす力が身につく! ダイアモンド社 (2007)
- ・ファシリテーション・グラフィック議論を「見える化」する技法 日本経済新聞出版社 (2006)

▶幸せについて学ぶ

- ・幸せのメカニズム実践・幸福学入門 講談社 (2013)



参加者の感想

- ・能動的に Input をしていけないと Output につながらない。
- ・若者の参画はオシャレ感が必要。ただ真面目なだけの会議には参加しづらい。
- ・聞いている方々に特に何を伝えたのか、ただ意見を出すだけではなくそういったことも考えないといけないのだと思った。
- ・ワークの際に、相手に話しかけるように発表することを意識することが大切だと感じた。
- ・地域の方にも協力していただかないと課題を解決できないと思いました。

次回の研修

日付 平成 27 年 2 月 19 日 (木)
 時間 9:30 ~ 12:00
 会場 高浜市役所第 5 会議室
 高浜市しあわせづくり計画のコンセプトを考えます。



studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合振興計画など、まちづくりのワークショップや住民参加型の総合計画づくりなどに携わっている。http://www.studio-l.org

職員研修

みんなが幸せに暮らしているために自分は何ができる!

第3回職員研修



ワークショップの ファシリテーター技術を習得

高浜市では、すべての市民が幸せを感じ、いつまでも住み続けたいと思える高浜市を実現するために、市民一人ひとりが主体的に取り組むことを考えられるような計画をつくっていきます。第3回目となる今回の研修では、ワークショップを進める上でその進行を担うファシリテーター技術について学びました。ワークショップを円滑に進める上で、参加者が意見を出しやすい、話しやすい雰囲気づくり、付箋やプロッキーの使い方、模造紙のまとめ方などを学びました。レクチャーの後は、第1回目の研修で出した高浜の課題について、自助、公助、共助の視点からそれぞれの役割を考えました。グループによって取り上げる課題も様々で特色あるまとめとなりました。

日付 平成 27 年 1 月 13 日 (火)
 時間 13:30 ~ 16:00
 会場 高浜市役所第 2 会議室

プログラム

- 13:30 はじめに
- 13:35 前回のふりかえり
- 13:50 レクチャー
- 14:40 テーブルワーク
- 15:55 おわりに

ファシリテーションについて

ワークショップには、作業場、工房などの意味があります。参加者それぞれが経験、センス、知識などを持ち寄り「創発」する場がワークショップです。参加者同士が相互にやりとりすることで、学びや発見、創造があります。

ワークショップを導入する理由

1. 一方通行ではなく、双方向の学びと体験の場づくり
2. 作業を通して主体性を引出す
3. みんなで作業することで、チーム化できる
4. ルールの導入で、多様性を確保できる
5. 議論の見える化

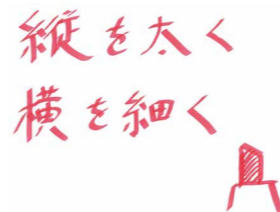
ファシリテーターとは？

1. 場をつくり、つなげる
 - ・目的（テーマ）の共有
 - ・話しやすい雰囲気づくりや意欲の醸成
2. 受け止め、引き出す
 - ・発言者のメッセージを受け止める
 - ・メッセージに込められた思いを引っ張り出す
3. かみ合わせ、整理する
 - ・メッセージを仲間分けして、メッセージに名前をつける
 - ・メッセージ全体をまとめて、矢印などを使って整理する
4. まとめて、分かち合う
 - ・みんなで話し合いをふりかえる（学びがあったか、積極的に参加したか）
 - ・次回へ向けての意気込みや宿題を確認する



Let's try!

ファシリテーショングラフィックに欠かせないマーカーの使い方を実践しました。太い方を使い、先のとがった方が左側になるように、寝かせて持ちます。縦を太く、横を細く書くことで、遠くからでも読みやすい文字を書くことができます。



ブレイクタイム

今回のブレイクタイムでは「人間知恵の輪」に挑戦。4つのグループに分かれ、みんなが距離を縮めて輪になり、手を交差してお隣以外の人と手をつなぎます。手を離さず絡まった状態をみんなで声をかけあいながらほどこいていきます。お互いに声をかけあいながら、手をくぐらせたり、跨いだり。みんなで力を合わせて一つの輪になるまで試行錯誤しました。全体を見渡ししながら、声をかける、積極的にコミュニケーションを図ることはとても大切です。ワークショップのファシリテーターも会場全体の雰囲気を見ながら、話しのできていない人には声掛けをしたり、積極的にコミュニケーションを図り、問題解決の糸口を見つけることが求められます。



課題から考える自助・公助・共助

今回のワークでは、ファシリテーショングラフィックで意見をまとめていく方法ではなく、模造紙のフォーマットが決まったもので話し合いを進めました。第1回目の職員研修で出した高浜市の課題について、解決に向けた取り組みを自助（自分や家族でできること）、公助（行政でできること）、共助（地域で協力してできること）の視点で考えました。

○救急病院がない

- 自助：かかりつけの医者をもつ
- 公助：病院を誘致
- 共助：ラジオ体操を開催



○防災対策が不十分

- 自助：家族で話し合う、訓練に参加する等
- 公助：避難所の設置
- 共助：ご近所づきあい

○大学がない、公共施設の老朽化

- 自助：よその町のものを利用
- 公助：長寿化、耐震工事に補助
- 共助：地域で学び合う、



○高齢化、世代間交流がない

- 自助：地域の行委に積極的に参加
- 公助：高齢者生きがいを与える
- 共助：普段からのあいさつ

○若者がまちづくりに参加しない

- 自助：フリーマーケットの開催等
- 公助：まちづくりセミナーを開催する等
- 共助：イベント開催する

○防災

- 自助：家族で災害が起こった時のことを話し合う
- 公助：家具の固定、非常食購入への補助を出して備蓄してもらおう電灯や防犯カメラの設置、ハザードマップの作成
- 共助：近所で助けていく関係性づくり

○高浜市の認知度が低い

- 自助：自己紹介時に高浜市出身ですと言う
- 公助：学校教育で道徳の時間に高浜市を学ぶ機会を増やす
- 共助：地域ごとの特産物作りや地域対抗イベント

○居場所づくり

- 自助：一人でやらずみんなでやる
- 公助：企業のグラウンドを使えるようにする

○地場産業の衰退

- 自助：瓦美術館にしてみる
- 公助：どんな地場産業があるか把握、とりめしアイデアコンテスト

○若者のまちづくりへの参加不足

- 共助：フェイスブックでPR



○防犯、夜道が暗い、歩いている人が少ない

- 自助：明るくて大きい道を通る、反射材を身につける
- 公助：散歩道の整備、街灯を増やす
- 共助：防犯パトロール、防犯との設置、補助金をもとに必要なところに設置防犯灯

○高齢者と若者の交流、若者の参加、世代間交流

- 自助：自分がまちづくりに積極的に参加
- 公助：既存制度のPR
- 共助：おしゃれを取り入れる

○市の魅力・認知度不足、運動できる場所がない

- 自助：まちづくりに参加して、友人や近所に広めていく
- 公助：フェイスブックやTwitterでPR
- 共助：職場でチラシを配る、市内の人が市外の人にPR

○道がせまい、渋滞、高浜駅前が寂しい

- 自助：車ではなく自転車、電車、また徒歩で移動
- 公助：徒歩の出勤を奨励する日を設置、自転車等に補助
- 共助：始業時間をずらす、フレックスタイム



○高齢化

- 自助：自ら運動、食事に気を付ける、趣味の集まり
- 公助：生涯現役のまちづくり、保健活動
- 共助：隣近所の見守り、誘い合って集まりをつくる等

○若者が街づくりに参加していない、世代間交流がない

- 自助：興味のある活動に参加、子供を地域で育てる意識等
- 公助：学識経験者をつれてくる、公共的な場づくり
- 共助：まちづくりに楽しく参加、見回りネットワーク等

○生後6カ月以内の一時保育

- 共助：ママ友同時で預かる

○企業が少ない、お店が少ない

- 自助：起業できる、地元のお店を使う
- 公助：企業誘致
- 共助：お店の人もまちづくりに参加、地域の集会をお店で行う

○夜が暗い、企業が少なく、お店が少ない、歩道が少ない、防災に不安あり、パチンコ店が多い

- 自助：起業できる、地元のお店を使う
- 公助：企業誘致、企業進出の場所の提供
- 共助：お店の人もまちづくりに参加、地域の集会をお店で行う



1班



2班



3班



4班

